

令和5年度 崇化館中学校自己評価の分析結果

崇化館中学校の教育活動について、本校の教職員が自己評価を行いました。結果を分析しましたのでお知らせします。

<よくできていると感じている点>

○ 特色ある学校づくり

「特色ある学校づくり推進事業を活用し、特色のある教育活動をおこなっている」

☞ 本校は、長年、ボランティア部「麦の会」を核としたボランティア活動を行ってきました。

本年度は、コロナ禍が終息に向かい、全校からボランティアを募った「フラワーロード活動」や、「麦の会」「美術部」が崇化館夢フェスタへの参加をするなどの活動をしてきました。

また、新型コロナウイルス感染症流行前に交流館と連携して実施してきた、挙母祭り翌日の清掃活動を実施することができるなど、総合的な学習の時間の学びとして、ボランティア精神を高めることができました。

今後も、地域とともにある崇化館中学校として何ができるかを考えながら、学びと活動の充実を図っていきたいと思います。

○ 教育相談

「子どもとのふれあいを大切にし、教育相談等で生徒理解に努めている」

☞ 生徒が安心して生活できることこそが最も重要という認識のもと、活動の様子や表情、日記（自分ログ）などから、常に小さな変化やサインを見逃さないよう努めています。また、年3回行う「いじめ相談アンケート」、テスト週間に行う「定期教育相談」からも、生徒の心の変容や問題の把握に努めてきました。また、学習用タブレットで相談したい教員を生徒指導主事にいつでも伝えることができる「先生たすけて」を周知し活用しました。

相談があつたり、気にかかつたりした生徒には即座に話ができる環境を整え話を聞き、保護者と情報を共有し、協力して対応を図るよう努めてきました。また、いじめ対策委員会・不登校対策委員会や学年主任者会、生徒指導部会、子どもを語る会等の中で、職員間で情報と対応を共有しています。さらに、急を要する場合や必要を感じた際は、臨時の会議を開き、早期の組織的な対応を行っています。必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の相談員にも協力を要請し、迅速に問題の解決と心の安定が図れるよう努めています。

今後も、心の問題の早期発見、早期解決を第一優先に、日常の関わりを大切にするとともに、一人の生徒に対して多くの職員が関わり支え、全ての生徒が安心できる学校をつくり上げていきます。

○健康教育・安全教育

「子どもが心身ともに健康な生活が送れるよう指導しているか」

「子どもの安全を守る活動を積極的に進めているか」

☞ 本年度も学校保健重点目標を「心身の健康の増進を図り、主体的に健康管理のできる生徒の育成」として教育活動を進めてきました。そして、新型コロナウイルス感染症や熱中症などの危険から身を守るためにセルフチェックや自己管理については、継続して指導や取組を進めてきました。必要に応じたマスクの着用、手洗い、水分補給や帽子の着用、傘さし登下校、行動（運動量）の調整等については、どの生徒も自身の力でコントロールできるようになってきています。

本年度は、学校保健委員会で「あなたの生活リズムは大丈夫？～活力ある高中生を目指して～」をテーマとして、学校医2名、学校歯科医2名、学校薬剤師、保護者（育友会）2名、代表生徒（保健委員）14名、教員5名の計26名で実施しました。保健委員の生徒から今年度の保健活動の報告やアンケート結果の発表をした後、4グループに分かれてグループ協議を行いました。

また、ハートフル集会、薬物乱用防止教室、心肺蘇生講習会、防災訓練や学年ごとにテーマや内容を決めて行う防災学習など、自他の心と体を守るために学習にも力を入れて進めてきました。

今後も、保健委員会をはじめとする生徒の主体性や発想を生かしながら、生徒の今と未来にとって価値ある学びや活動を進めていきます。

<さらに努力が必要を感じている点>

○ 学習指導

「一人一人に応じたわかりやすい授業をしているか」

☞ 現職教育（校内教員研修）において、「主体的・対話的で深い学び」に向けて、教員の力量向上のための授業実践や授業研究を進めてきました。指導員を招き道徳科で代表授業を実施し、その後、全体で協議会を行ったり、市内の11年目教員に向けての数学科指導授業を本校職員が行い、その授業を本校職員が参観したりし、対話的な学びや互いの考えを聞きながら深い学びにつなげていく授業づくりについて研鑽を積むことができました。

昨年度から導入されているQubena（AI型ドリルソフト）を活用し、自分の学びたい分野に繰り返し取り組んだり、問題を解き終えたあの復習に生かしたりするなどの場面づくりも継続しています。ペア学習やグループ学習を行いやすくなってきた環境の中「協働的な学び」の充実を目指し、現職教育等で研修を深め、教員の授業力向上を図っていきます。また、授業における生徒自身の振り返りを大切にし、学習の定着を図るとともに、個々の状況把握を生かした授業づくりに努め、授業や個別指導に生かしていきます。

○ 環境教育

「主体的に環境保全に取り組む態度の育成に努めているか」

☞ 世界的な共通課題であり、昨今はメディア等でもよく耳にする「SDGs」を、社会科や家庭科、総合的な学習の時間の中で学習するなど、タイムリーで生活に直結したテーマを取り上げて学習を進め、意識の高揚を図り、持続可能な社会の担い手の育成を進めています。しかし、主体的に環境保全に取り組む態度が生徒に養われていないと考えている教員が多いため、生徒の具体的な行動の変容をめざして取組を充実させていきます。

○ 生徒指導

「基本的な生活習慣や規範意識の向上を図るように指導しているか」

☞ 2年前から、毎日の持ち帰りも含めた、学習用タブレットの活用が始まっています。それに伴い、スマホやSNSの安全かつモラルに配慮した使い方など、情報モラルについて様々な場面や事例を通して指導してきました。また、同時に、不適切な利用方法における健康への影響についても指導してきました。

しかし、実際には、危険を伴うサイトへの軽はずみなアクセスやSNSへの不適切な書き込みを行う生徒、深夜まで使用することによって起こる心身の不調や生活リズムの乱れが見られる生徒がいることは確かです。また、SNSへの書き込みが原因で人間関係が崩れたり、非行を助長したり、命を脅かすことにつながったりする情報に容易に触れたりし、明るく前向きな日常生活の妨げになっているケースも見られます。さらに、ネットやメディアから発せられる様々な情報や、多様性を認める風潮などから、以前のように一律かつ一方的に社会的ルールやモラルを指導することが難しくなっています。

そのような現状があるからこそ、今後も、道徳教育を基盤にしながら、教育活動全般において豊かな人間性や心を育てる教育を充実させるとともに、一つ一つの事例や出来事を捉えて、生徒が善悪や望ましい行動を考えることができる機会を増やしデジタルシティズンシップ教育を充実させていきます。